

農村の活性化と都市農業の理解  
促進に向けた  
新たな協同をめざして



第12号

2020年9月発行

JA都市農村交流全国協議会・会報誌

# クロス・カントリー

CROSS-COUNTRY



JA都市農村交流全国協議会

## ご挨拶

JA都市農村交流全国協議会の会報誌「クロス・カントリー」の第12号を発行する運びとなりました。  
今号は、2月に開催した「情報・意見交換集会」の内容と、令和2年度事業についての情報をご紹介します。

JA都市農村交流全国協議会事務局

## 目次

### 協議会活動（令和元年度 JA都市農村交流全国協議会 情報・意見交換集会）

《実施概要》	3
「アグベンチャーラボ」とは	3
《開会・挨拶》	4
《情勢報告》	4
《全国連会員の取り組み報告》	
一般社団法人全国農協観光協会 事業部 地域振興・活性化事業 第1グループ グループ長代理 鈴木 誠司氏・平川 萌々子氏	4
《講演》	
『おてつたび』の取り組みについて 株式会社おてつたび 代表取締役CEO 永岡 里菜氏	5
《優良事例報告：第2回 JA都市農村交流優良活動事例表彰 最優秀賞》	
石川県JAはくいの『のと里山農業塾と農泊』への取り組みについて はくい農業協同組合（石川県）経済部 次長 粟木 政明氏	6
《パネルディスカッション》	6

### 協議会からのご案内

協議会の令和2年度事業活動計画について	7
協議会・助成要領について	8
WEBサイト「JOINTly GREEN」の活用について	8
会員の皆様へ（第3回 JA都市農村交流優良活動事例表彰のご案内）	9

### 協議会より情報提供

令和2年度地産地消優良活動表彰応募について	10
第5回食育活動表彰募集について	11

お知らせ 都市農村交流参考資料	12
-----------------	----

## クロス・カントリー（CROSS-COUNTRY）とは

本誌のタイトル「クロス・カントリー」は、創刊号で募集し、会員様からいただいた応募作品です。愛称は「クロカン」。  
命名の趣旨は、単語そのままが良いです。カントリーは田舎をイメージすることが多いのではないのでしょうか。または、母国や故郷がイメージできる言葉でもあり、国産農産物や地産地消、地域食文化と馴染みやすい言葉です。  
そのカントリーを縦横無尽に結びつけ、人の交流、ものの交流を有益に繋げることを意味しました。本来は、オリンピック種目にもあるように、アップダウンある野山を一步 一步踏みしめて進むことであり、農山漁村風景そのものをさしています。

令和2年2月3日、東京・大手町の「アグベンチャーラボ」に於いて、令和元年度のJ A都市農村交流全国協議会 情報・意見交換集会が行われました。

事務局の司会進行で、地域の魅力を活かし、都会から農村に人を呼び、人手不足を解消する仕組みなどについて講演や事例報告を含め、活発な意見交換が行われました。

### 実践概要 <第一部 情報・意見交換会>

時間	次第	内容
12:30~13:00	受付	
13:00~13:10	開会・挨拶 J A全中 営農・くらし支援部 次長 今井 準幸	
13:10~13:30	【情勢報告】 J A全中 営農・くらし支援部 くらし・高齢者対策課 課長 堀田 亜里子	都市農村交流についての情勢を報告
13:30~14:30	【講演】 『おてつたび』の取り組みについて 株式会社おてつたび 代表取締役CEO 永岡 里菜 氏	都心部の主に学生が旅先で「お手伝い」を通じ地域との絆を深める特別な体験を提供し、人手不足で悩む地域の困りごとを解決するというマッチングプラットフォームの運営を行っている同社の取り組みについてお話しいただきます。
14:30~14:40	休憩	
14:40~15:10	【全国連会員の取り組み報告】 『援農隊』の取り組みについて 一般社団法人全国農協観光協会 事業部 地域振興・活性化事業 第1グループ グループ長代理 鈴木 誠司 氏 平川 萌々子 氏	担い手不足が深刻な日本の農山漁村を応援するために、都市住民のボランティアにより農作業支援の活動などの取り組み事例についてご報告いただきます。
15:10~15:50	【第2回 優良事例報告:最優秀賞】 『のと里山農業塾と農泊への取り組みについて』 はくい農業協同組合(石川県) 経済部 次長 栗木 政明 氏	自然栽培を推し進める、『のと里山農業塾』での活動を中心に他県JAや都内レストラン、大学等との幅広い団体との最新の活動についてご報告いただきます。
15:50~16:00	休憩	
16:00~17:00	【パネルディスカッション】 コーディネーター：株式会社農協観光 地域交流推進室 課長 石井 唯之 氏 パネリスト：各登壇者、全中	『都市と農村の交流について』について、各方面で活動している方々から、これからの在り方について意見交換をしていただきます。
17:00~17:10	質疑応答・閉会	
17:30~19:00	第二部 交流会	協議会の会員同士が、各活動のノウハウや悩み・課題などを共有し、今後の取り組みへの活力やヒントを得られる交流の機会とします。

### 「アグベンチャーラボ」とは



今回初めて「情報・意見交換集会」の会場となった「アグベンチャーラボ」とは、Agriculture(農業)×Adventure(冒険)×Aggressive(積極的)からなる造語で、一般社団法人Ag Venture Labは、J A全中、J A全農、J A共済連、農林中金、家の光協会、日本農業新聞、J A全厚連、農協観光の8団体で運営しています。大手町ビル9階のスペースには、柔らかなコミュニケーションの仕掛けとして、空間を完全に仕切らず、メンバー同士がお互いの気配を感じられる木やグリーン、曲線を用いる場となっています。

モデルとなったのは、農林中金が連携している世界有数の金融機関であるクレディ・アグリコル(フランス)が、2014年に開設したイノベーションラボ「Le Village(ル・ヴィラージュ)」で、スタジオのような空間創りとなっています。



今井 準幸 次長

JAグループが設立した「アグベンチャーラボ」で行う、協議会としては初めての意見交換集会です。JA・中央会・連合会の役職員、JA青年組織・女性組織など約40名にご参加いただきました。くらしの活動を展開しておりますと、直売所や介護事業からも「人手不足」「人材不足」という話しが頻繁に聞こえてまいります。今回はベンチャー企業として新たな発想で「旅」と「人手不足」をマッチングさせる方法や、ボランティアによる援農隊、JAはくいの優良事例のご報告などのお話をいただきます。

どうか、この意見交換会を通じて、何かひとつ参考になるものを持ち帰って役立てていただきたいと思います。

## 情勢報告

JA全中 営農・くらし支援部 くらし・高齢者対策課 課長 堀田 亜里子

JA都市農村交流は、10年前(平成22年の第25回JA全国大会において)決議されました『くらしの活動』の推進による協同の創造』具体策として動き始め、全国協議会が設置されました。

「都市部」には、都市農業への理解促進と准組合員の拡大。「農村部」には、地域の活性化や農外所得の拡大があげられています。また「子ども」には食農教育やキャリア教育。「高齢者」には生きがいや健康づくりへの有効な手段として活動しております。

また、昨年3月の第28回大会でも、「食と農、地域とJAを結ぶ」取り組みをさらに押し進め、青年組織・女性組織など様々な団体と連携して「食農教育」や農業・農村の関係人口の拡大、農家民宿や観光農園の展開などによる農業者の所得増大の実現を目指しています。平成30年度の「全JA調査」で農業体験の受入は167のJAが964回、小学生を対象とした都市部から農村部への旅行企画には51のJAが105回実施しております。

今後も、地域の「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、JAの強みを生かした、その地域と多様に関わる人々「関係人口」を交流事業によって増やすことをねらいのひとつとして活動してまいります。



堀田 亜里子 課長

## 全国連会員の取り組み報告

一般社団法人全国農協観光協会 事業部 地域振興・活性化事業 第1グループ  
グループ長代理 鈴木 誠司 氏・平川 萌々子 氏

鈴木 誠司 氏

## 全国農協観光協会による『快汗! 猫の手援農隊』の取り組みについて

本会は公益事業として観光業界に資する事業の他に、農山漁村地域の振興に繋がる都市農村交流事業「快汗!猫の手援農隊」を平成11年より実施しています。

その第1回目は、新潟県南魚沼地区でブランド西瓜「八色(やいろ)西瓜」の収穫作業。生産者からは、はたして「交通費」や「宿泊費」を自己負担してまで参加者が集まるのだろうかと心配しました。しかし、心配をよそに、多くの参加があり、以来今日までに全国で46ヶ所、述べ約6,500人の方たちが「援農隊」として活動されてきました。

その要因の一つに、添乗員が同行する募集型企画旅行であることが挙げられます。例えば、昨年11月の長野県JAながのでの「りんごの収穫援農隊」。現地各自集合し、オリエンテーションで作業手順を教えた後、3日間終日作業につきます。その間、おいしいりんごの見分け方を学んだり、生産者との交流会なども行われるなど、単なる労働力の提供に終わることなく都市と農村の交流に発展しています。

参加者は女性比率が70%で、50~70代がメイン。リピーターとなる方も多く、「農家の役に立ちたい」「農家と交流したい」「農業や農産物の理解を深めたい」などが参加者の動機であり参加メリットとなっています。

一方、農家や地域の側には「人手不足解消」とともに「地域・農産物のPR」や「一般消費者のニーズの把握」などの情報もたらされます。さらには、援農隊の存在が、農業への意欲向上にも繋がっています。

平成30年度は全国25ヶ所で21企画、430人に参加いただきました。群馬県JA邑楽館林ではブランドハクサイの収穫作業、富山県JA高岡では「チューリップ花摘み隊」長野県JAみなみ信州では「市田柿援農隊」を実施しました。神奈川県JAはだのでは、母の日が過ぎた畑の「カーネーション片付け隊」というやや地味な日帰り企画でありながら多くの参加申込みがありました。

今後は、さらに参加しやすい日帰り企画なども充実させ、都市住民の農業の理解促進、そして農家の人手不足解消に役立つ交流事業として続けていきたいと思っています。



平川 萌々子 氏

## お手伝いと旅のマッチングプラットフォーム『おてつたび』の取り組みについて

「おてつだい」と「たび」を掛け合わせて「おてつたび」という名前の会社を2018年の7月に起業しました。

人手不足によりお手伝いの人を求める地域の方と、お手伝いをしながら地方の旅をしたいと思う方との「マッチングプラットフォーム」をウェブ上で運営している会社です。大学生などがスマートフォンから簡単に短期的な労働先を見つけ、申し込めるシステムです。

旅先でお手伝いをした労働の報酬が交通費(旅費)などになることにより、行く側にとっても呼ぶ側にとっても金銭的な負担感が軽減でき、行動のハードルを下げることができます。

また、観光ではない側面からその土地を知ることができるという、旅の動機づけ、心理的なハードルを下げることもできます。

そこでの経験をしたことが「誰かにとっての特別な“地域”を作る」ということをミッションにしています。誰かに伝えたくなくなり、誰かを連れて行きたくなる、そんな特別な地域をもっと作ってほしいということです。

前職で和食推進事業に関わっていたとき、日本各地を訪れました。それぞれの地域の方と話し、いろいろな作業をする中で、一歩踏み込んだ仕事関係が成立したときに、その土地が自分にとって特別な地域に変わる、その土地のファンになることを知りました。と同時に、定期的・短期的な人手不足の深刻さも実感いたしました。昔からある季節労働、出稼ぎ、住込みバイトなどの労働力により地域が支えられていたことを知りました。これらの短期的・季節的な人手不足に対応する労働に、もっとワクワクしたコバを付けて、地域への接点を見つける手段として誕生したのが「おてつたび」です。

受入れる地方の方には「宿泊場所」と「食事」とお手伝いに対する「報酬」をご提供いただきます。「宿」は農泊であったり公共施設の利用であったりします。「報酬」は、都会並みである必要はなく、その地域のアルバイトと同水準でかまいません。

「おてつたび」を利用して地方へ行く側は、「宿」と「食事」の心配はすることなく、お手伝いの「報酬」から交通費を捻出し、地方の旅や交流の時間を得ます。いわゆる観光ではなく、仕事を通じて人と接することで、飾らない地域の魅力を持ち帰ることができるのです。

このシステムで大切なのは、双方のマッチング。相性です。

まず地方の受入れ(人手が欲しい)側に、「作業の内容」「日時」「報酬」などを登録していただきます。画面には、登録されたいくつかの「おてつたび先(お手伝い先)」が並びます。

ユーザーは「簡単なプロフィール」などを入力して登録し、スマートフォンを使ってその中から希望にあった旅先(お手伝い先)を選びボタンを押して申し込みます。うちなどに来てくれる人はいるのだろうか? と心配する声を聞く事もあります。しかし、若者を中心に、1件あたり6~10倍の申し込みがあります。

電話で確認し合うことも可能ですが、受入れ側が決定すればマッチングが成立し、「おてつたび」が実施されます。私も、大変そうな作業などについては事前にユーザーに伝えるようにしています。それは、双方にとって、こんなはずじゃなかったと「後出しジャンケン」になることをなくすためです。終了後のリサーチによると、受入れ側も参加者側も満足度は高いものとなっています。そして相互が投稿するレビューは、新しいユーザーへの参考にもなっています。

その土地との“関係性”が増している結果を示すものとして、ユーザーの再訪率は、プライベートや「おてつたび」の再利用を含め約6割に達しています。よそゆきの訪問ではなく、お金をいただく労働を経験することで生活と密着し、その土地が自分にとって特別なものとして位置づけられていくものと思われまます。

登録は無料で、マッチングが成立した時に、当社は規定の手数料をいただいております。「おてつたび」では、“楽しい”“きれいな”だけの体験は売っていません、“泥臭い”“大変”な部分も含めて「経験」を売っています、と説明しています。

特に農業や第一次産業からの受入れを望む声が多く聞かれました。そして、2019年に「JAアクセラレーター」優秀賞をいただいたのをきっかけに、JAおいらせ(青森)、JAおきなわ(沖縄)、JA紀の里(和歌山)とのコラボレーションをさせていただいております。農作業ばかりではなく、農産物直売所などでのバックヤードや物販の補助などにも活用する機会も、今後も増えていくのではないかと感じています。

様々なメディアに取り上げられることも、人材不足の現状とその解消手段が広がるひとつの方法かも知れません。一緒に仕事に向き合うことで、お客様や観光客としてではなく、共に働く“仲間”として溶け込めた時、その地方への思い入れが特別なものとして根付くのだと信じています。



永岡 里菜 氏  
2019年「JAアクセラレーター」  
優秀賞を受賞

## 優良事例報告：第2回JA都市農村交流優良活動事例表彰 最優秀賞

はくい農業協同組合(石川県) 経済部 次長 粟木 政明 氏

### 石川県JAはくいの『のと里山農業塾と農泊』への取り組みについて

石川県のJAはくいは、第2回JA都市農村交流協議会優良活動事例におきまして「のと里山農業塾と農泊」の取り組みで最優秀賞をいただきました。

JAはくいは、2011年に日本で初めて「世界農業遺産」に認定されました「能登の里山里海」の地域で活動しております。里山里海の人々の生活の中で、祭や神事を通して自然をシステムとして回していくということを意味しています。

そのような環境の中で、当JAは、羽咋市と連携し「はくい式自然栽培」に取り組んでいます。これは農薬や肥料を使わずに、自然の生態系システムを最大限に活用した農業です。ただし、JAである以上、農薬や肥料を否定するものではなく、あくまでも栽培法の有力な選択肢をひとつ増やしたというスタンスです。使う使わないは「優劣」ではなく、生産者の中には「限界値を知る事ができた」との声も聞こえてきました。

このような栽培方法を打出したこと含め、多様性を受け入れることで新たなご縁が生まれたり、またこの町のことを学び直すことにもつながりました。農家が大切に育て上げた農作物に、様々な価値を創造することで、生産者にもJA職員にも誇りとやりがい生まれてきました。自分の町の価値を知ることは、都市農村交流において、とても大きな意義を持つものと思います。その価値を都市や近隣に発信できるからです。

「はくい式自然栽培」は、市・JA・農家の三位一体で実行委員会をつくり、協議会の認証委員会で二者認証を行っています。今後は、国際有機農業運動連盟(IFOAM)による第三者認証に並ぶ参加保証システム(PGS)も展開の予定です。

その実行委員会が2010年から運営しているのが「のと里山農業塾」です。全国から塾生を受け入れており、第10期目。これまでに500人以上が卒業していきました。

また、道の駅なども含め、県内外からの消費に対しても積極的に行動しています。地元で採れたものを一番おいしい状態で、しかも農家さんとのコミュニケーションも一緒に食を楽しんでいただきたいと思います。都市農村交流において、こうした関係性の中で新たな価値が芽生えることで、結果として農家所得の向上や生産者の自立、町や地域の発展に貢献できるものと考えています。

今後も「関係人口」や「SDGs(持続可能性)」などのキーワードを活かし、牽引していくのは、まちがいなく信念を持った「人(マンパワー)」の存在であると信じています。



粟木 政明 氏

### パネルディスカッション (抜粋、敬称略)

コーディネーター：株式会社農協観光 地域交流推進室 課長 石井 唯之 氏

#### 人手不足の解消をきっかけとして

石井：農業における短期的・季節的な人材不足についてですが、「人を送り出す側の人材の質」と「受け手(農家側)の満足度」についてお聞かせください。

永岡：「おてつたび」の場合は、応募者に10分程度、電話で労働の内容などをできるだけ細かく伝えるようにしています。それは質と満足度とはそれぞれの「相性」だと思うので、齟齬のないように。

平川：猫の手援農隊は、完全なボランティアとして20年間、約6500人というノウハウの継承と、またリピーターの多さ、職員の同行などで対応できているように思います。

粟木：意外なのは、収穫などではなく、くさむしりや収穫後の片付けなどにも都市部の人は喜んで参加してくれるということです。特別なイベントとしてではなく、「日常としての農業」に参加者のほうが価値を見いだしてくれているように思います。

堀田：体験型農業も、何度か繰り返すことで双方の意識や気づきが変化していきます。一過性のイベントではなく、積み重ねがとても大切ですね。

石井：都市農村交流は、一回の観光旅行で満足度を上げるというものではないということですね。今後も粘り強く人手不足の解消に取り組むことは、JAグループとして、地域の魅力を発信し、新たな就農や消費につなげていく上で大切なきっかけになると思います。

本日は、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。



石井 唯之 氏



パネリスト：左から 永岡 CEO、平川 氏、粟木 次長、堀田 課長

● 協議会の令和2年度事業活動計画について（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

令和2年度は以下の活動を計画しております（抜粋）。

● セミナー・研修会の開催について

(1) 情報・意見交換集会（セミナー）

会員の人材育成・ノウハウおよび都市と農村の交流に求められる情報・スキル習得を目的とするセミナー・研修会を開催する。

【内 容】協同組合間や地域における連携による「地域の活性化」や「アクティブ・メンバーシップ」の確立に貢献する事例、等の共有を図る。

【開催時期】令和3年2月予定

【開催場所】東京予定

(2) 推奨研修会の開催案内（協議会助成対象研修）

全国連が開催する研修会を推奨し、助成の対象とし参加を案内する。

① 自然・農林体験活動におけるリスクマネジメント研修会 [主催：(一社)全国農協観光協会]

受入時に最も重要となる安全管理を学び、事故防止や事故発生時の対応のスキルアップを図る。

② 農泊研修2020 [協議会と(株)農協観光の共催]

国内外からの旅行者を農山漁村に呼び込み、宿泊や食事の提供、各種体験コンテンツ、お土産販売等を通じて農林水産物の消費拡大、及び農山漁村の所得向上を図る「農泊」に取り組もうとする、もしくはすでに取り組んでいるJA（担当者）へ向けて農泊地域づくりへの知見の提供、取り組みを牽引する担い手へ向けての課題解決や、質の向上、更なるレベルアップを図ることを目指す。

● 調査・研究の実施について

会員の興味・関心の高いテーマ、地域の活性化、アクティブメンバーシップ推進につながるテーマの調査・研究を行い、会員の活動へ活用が図られるよう展開する。

(1) 交流によるネットワークづくりが進む中で、会員間や漁業協同組合、森林組合、生活協同組合など他の協同組合、行政・地域組織などと連携した先進的な取り組みについて、引き続き調査・研究を行う。

(2) コロナ禍を機に過密を避けられる「地方回帰」や「田園回帰」の潮流を捉え、『新しい生活様式』の定義も意識しつつ、直売所を起点とした農業体験（収穫体験）や体験型農園、また農家民泊の運営を通じて、農山村の魅力を伝え、関係人口の拡大へ向けて多様な交流の在り方、都市部にはない価値を作り出す新たな仕事づくりにつながる地域の活性化へ向けて外部団体と連携して調査・研究を行う。

(3) その他、会員からの要望に応じて取り組む。

● 会員の活動に対する支援について

会員による「交流」に関する活動が促進されるよう、協議会による支援およびJA全国機関と連携した支援を行う。

(1) JA・県域において開催される研修会等に関して、資料提供および講師派遣などの支援を行う。これらの支援に関しては、会員の要望に応じて、JA全国機関と連携のうえ対応する。

(2) 都市農村交流等の活発化、質的向上を期して、会員活動およびセミナー・研修会参加等に係る費用の助成を行う。

(3) 特に優れた交流活動を表彰して、今後の交流活動と会員相互の連携促進を支援することを目的に、第3回優良活動事例表彰の実施に向けて、令和2年度に事例を募集する。

● 情報提供について

(1) 送付物（郵送・E-mail）

① 都市農村交流に関する会員の取組事例およびJAグループによる事例紹介など幅広く情報収集し、会報誌「クロス・カントリー」として発行する。

② 日本農業新聞記事データベースを活用し、「食と農」を基軸とした多様な交流に関する地方の情報をE-mail (bcc)にて配信する。

(2) ホームページの運営

① 会員に対しタイムリーな情報を提供するため、情報収集と発信機能の向上を図り、協議会の活動、会員の活動、JAグループの取り組み、外部団体の取り組み、等に関する情報を積極的に発信する。

② 新たなJAファン・農業ファンと会員活動を結ぶ手段として、インターネットを活用し、会員による「催し」や「イベント」等の情報を外部へ告知するとともに参加受付が可能なWEBサイト「食と農の交流サイトJOINtly GREEN」（ジョイントリー グリーン）の活用を促進する。

(3) 事例要領集の活用および普及推進

協議会および会員等が作成した事例要領集を紹介、更新する。

① 漁家民宿開業・運営の手引き（平成28年3月）

② 子ども農山漁村交流プロジェクト：受入地域協議会に対する調査報告（平成29年2月）

③ JA都市農村交流・農泊による応援団づくり（平成30年3月）

④ 都市漁村交流に関する基礎調査（平成31年3月）

⑤ JA婚活事例集（平成31年3月）、など

⑥ 農泊マニュアル（(株)農協観光・(一社)全国農協観光協会他 令和2年3月）

## 協議会・助成要領について

### ● 助成要領について

協議会では、都市農村交流に関する取組みの活発化および質的向上を期して、会員活動に関する費用の一部助成を行います。予算上、上限40会員となりますので、早めの申請をお願いいたします。

### ● 助成概要

#### 《助成対象団体》

J A都市農村交流全国協議会会員のJ Aおよび都道府県中央会の会員。但し、全国機関・賛助会員・学校教育機関会員は含まない。

#### 《助成対象事業》

令和2年度の計画事業・活動、かつ令和3年3月までに実施の以下の事項。

- ・都市農村交流等の体験企画の取組みに関する経費（農業体験料、貸切バス代金、募集費など）の一部（1申請上限3万円）
- ・J A・中央会職員または組合員等を対象とした都市農村交流等の取組みに関する人材育成のための勉強会の経費（講師謝金・旅費）の一部（1申請上限3万円）
- ・本協議会が認めたJ Aグループ主催の研修会・セミナーへの参加費の一部（一人当たり上限5千円、1研修会・セミナーにつき1会員2名まで）

## WEBサイト「JOINTly GREEN」の活用について

都市と農村の交流を促進する取組でも、WEBでの受付対応が主流となってきています。協議会では、手軽に登録・掲載できるサイト「JOINTly GREEN」（ジョイントリーグリーン）をご用意しております。

J Aまつり、農業体験、料理教室、食農教育イベント、観光農園、直売所催事、などの情報掲載が無料で出来、有料サービスでは受付代行の機能もあります。

当サイトの利用にあたっては、本協議会の会員特典として、情報登録を事務局で代行しています。発信したい情報のチラシや要望などをメールやFAXで事務局宛に送っていただければ掲載します。どしどし情報をお寄せください。

J A交流事業 ネット掲載料無料！ ネット配信による広範囲集客システム  
食と農の交流サイトが都市と農村を繋げる

【ジョイントリー】  
**JOINTly  
GREEN**

募集イベントの集客増！  
新規のお客様の集客！受付業務の効率化！  
イベント情報発信サービス

<http://green.jointly.hyakuren.org/>



## 1. 趣 旨

JA都市農村交流全国協議会会員の交流活動の取り組みを通じて、ファンづくりおよび地域活性化、あわせて優良活動事例の普及を図ることにより、今後の交流活動と会員相互の連携促進を高めることを目的として、特に優れた活動に取り組む会員に対して優良活動事例表彰を行います。

## 2. 対象期間

平成31年1月1日～令和2年12月31日 ※期間中に実施の取り組みとします。

## 3. 応募期間

令和3年1月1日～令和3年1月31日

## 4. 応募方法

応募者は、別に定める応募用紙に所定の事項を記入し、郵便、メールにより募集期間中に協議会事務局に提出。

## 5. 表彰の基準

「交流活動」とは、地域・組織の内外の人々との交流、農林水産物などモノの行きかい、情報の交換を相互の深い理解と思いを込めたやりとりで展開する「人・モノ・情報・思い」全般の交流を進めていくこととし、以下の基準とします。

### (1) 協同組合間連携

地域特性の異なる協同組合同士が、地域の特産品、生活文化・情報、組織活動、役職員研修、生産技術などの交流を実践することで組織を超えた仲間づくりなどの好循環により、ファンの拡大、地域の活性化、組合員メンバーシップの強化、事業拡大等に貢献する先進的な事例として他会員のモデルとなるもの。

### (2) 地域の多様な組織との連携

協同組合や地域の多様な組織（行政、学校、企業等）との連携により交流活動を展開し、ファンの拡大、地域の活性化、組合員メンバーシップの強化、事業拡大等に貢献する先進的な事例として他会員のモデルとなるもの。

## 6. 審査方法

審査委員会を設置し、応募関係書類による書面審査等を行い、受賞者を決定する。

## 7. 表彰の種類

- 最優秀賞 1点以内  
表彰状および副賞 10万円
- 優秀賞 2点以内  
表彰状および副賞 5万円

令和2年度 地産地消等 優良活動表彰応募についてご紹介します

令和2年度  
**地産地消等  
優良活動  
表彰**  
全国各地の地産地消の活動や  
自慢のメニューを募集します！  
(自薦・他薦)



**募集期間** 2020年7月29日(水) ~ 9月23日(水)

全国各地の創意工夫のある様々な地産地消や、国産農林水産物、食品の消費拡大を推進する団体・企業又は個人を募集します。  
自薦・他薦問わず、是非地域の特色を活かした創意工夫あふれる取組・活動をご紹介ください！！

【令和元年度受賞の事例】

- |   |   |
|---|---|
| 2 | 3 |
| 4 |   |
| 1 | 5 |
- <生産部門>
    1. 紀の里農業協同組合(和歌山県)
    2. 鳥取いなば農業協同組合(鳥取県)
  - <食品産業部門>
    3. 食品企業組合彩雲(兵庫県)
    4. 株式会社おくや(福島県)
    5. 朝日町農村女性グループ連絡協議会(富山県)

表彰部門

**生産部門**  
農林水産物を生産する団体・企業等

**教育関係部門**  
保育園、幼小中高校、大学、学校給食等

**食品産業部門**  
農林水産物を加工・流通・販売する団体・企業等

※国産・地場産品を使用したメニューづくりの取組は、教育関係部門、食品産業部門で応募できます。

**応募方法** 応募条件・方法の詳細(応募用紙)は、下記URLをご覧ください。



<https://www.e-toroku.jp/eatlocal2020> 地産地消 事例表彰

主催：農林水産省、全国地産地消推進協議会  
お問合せ：表彰事業事務局  
担当：森川・大和田  
〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-9-2  
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ【株式会社野村総合研究所内】  
TEL：03-5877-7372 E-mail：chisanchishou-ext@nri.co.jp

表彰の種類

<p>農林水産大臣賞 2点程度</p>	<p>文部科学大臣賞 1点程度</p>	<p>農林水産省関係局長賞 適宜</p>	<p>全国地産地消推進協議会会長賞 適宜</p>
-------------------------	-------------------------	--------------------------	------------------------------

表彰式

日時：令和3年2月12日(金)

農林水産省が推進する  
**「フード・アクション・ニッポン」**  
推進パートナーになりませんか？  
フード・アクション・ニッポンとは、日本の食を次の世代に残し、創るために、個人・民間企業・団体・行政等が一体となって推進する、国産農林水産物の消費拡大の取り組みです。  
推進パートナーにご登録いただくと  
① 推進パートナーとしての活動内容をフード・アクション・ニッポン公式Webサイト上やメルマガで発信することができます。  
② 推進パートナーロゴマークを、広告や名刺、商品などにご使用いただけます。  
 日本の食を次の世代に残し、創るために、ともに活動しましょう！

農林水産省

● 第5回 食育活動表彰募集についてご紹介します

# 第5回 食育活動表彰

## 食育を推進する優れた取組を募集します!

ボランティア活動、教育活動又は農林漁業、食品製造・販売等その他の事業活動を通じて食育を推進する優れた取組を表彰し、さらに食育を広げていきます。

**募集締切** 令和2年10月30日(金) **必着**

**表彰式** 令和3年6月26日(土)  
会場：岩手産業文化センターアピオ（岩手県滝沢市）

主催：農林水産省 後援：内閣府（申請中）、消費者庁、文部科学省、厚生労働省

詳しくは農林水産省ホームページをご覧ください。

食育活動表彰

検索



**応募内容に関するお問合せ**

農林水産省 消費・安全局消費者行政・食育課  
TEL 03-3502-5723  
(平日：9:30~17:30、土日祝日除く)

**応募書類の提出に関するお問合せ**

〔第5回食育活動表彰運営事務局〕株式会社日  
TEL 03-5402-6332 (平日：9:30~  
E-mail : syokuiku@nta.co.jp

農林水産省

食育に関するあらゆる取組が応募できます

**部門及び募集対象者**

【ボランティア部門】 都道府県、政令指定都市、大学等の長からの推薦

- ①食育推進ボランティアとして活動している個人及び団体
- ②大学（短期大学を含みます。）、高等専門学校及び専門学校の学生やその方々の団体
- ③食生活改善推進員の方やその方々の団体

【教育関係者・事業者部門】 自薦及び他薦

- ①農林漁業者（法人や組合、各種グループを含みます。）
- ②食品製造・販売、各種サービスの提供その他の事業者
- ③教育・保育、介護その他の社会福祉、医療・保健に従事されている方、事業者、団体
- ④地方公共団体（食育推進会議が置かれている地方公共団体においては、食育推進会議）

**受賞** 農林水産大臣賞 7点以内 消費・安全局長賞 14点以内

**募集締切** 令和2年10月30日(金) **必着**

**推薦方法**

- 以下のホームページにアクセスしていただき、専用の推薦調書をダウンロードしてご記入ください。  
農林水産省ホームページ / 食育活動表彰  
<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/hyousya/5th/boshu.html>



- 推薦調書、添付書類及び写真等は、第5回食育活動表彰運営事務局までE-mail（25MB以内）で送付又はCD-R等に電子ファイルを送付してください。

E-mail : syokuiku@nta.co.jp

郵 送：〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19 UD神谷町ビル11階  
株式会社日本旅行内【第5回食育活動表彰運営事務局】宛

**審査方法**

有識者等で構成される審査委員会において、応募関係書類により書面審査等を行い、受賞者を決定します。  
※審査結果は、令和3年3月頃に推薦者の方を通じてご連絡申し上げます。  
受賞された方は、表彰式へのご参加（代表者1名分の任意出席は農林水産省負担）をお願いいたします。



- ① 農林漁家民宿開業・運営の手引き (平成28年3月)
- ② 子ども農山漁村交流プロジェクト:受入地域協議会に対する調査報告 (平成29年2月)
- ③ JA都市農村交流・農泊による応援団づくり (平成30年3月)
- ④ 都市漁村交流に関する基礎調査 (平成31年3月)
- ⑤ JA婚活事例集 (平成31年3月)
- ⑥ 農泊の手引き (令和2年3月)

※配布をご希望の場合は事務局までお問い合わせください。



#### ■ 会員資格・年会費

J A・都道府県中央会・連合会・本部… 2万円  
 J Aグループ全国機関…………… 5万円  
 賛助会員…………… 5万円

#### ■ 会員数

J A63、中央会37、全国機関13、教育機関3 (2020年4月1日現在)

J A都市農村交流全国協議会 事務局 (J A全中 営農・暮らし支援部 暮らし・高齢者対策課)

H P : <http://ja-koryu.com/> TEL : 03 (6665) 6241 (代) 担当 : 小池

\*掲載内容に関するご意見・ご質問など、お気軽にお問い合わせ下さい。



**JA都市農村交流全国協議会**